

第2回中部歴史まちづくりサミット パネルディスカッション要旨

- コーディネーター：三重大学大学院工学研究科准教授 浅野 聡 氏
- パネリスト：高山市長 國島 芳明 氏、亀山市長 櫻井 義之 氏、犬山市長 田中 志典 氏
恵那市長 可知 義明 氏、美濃市長 石川 道政 氏、明和町長 中井 幸充 氏
岐阜市長 細江 茂光 氏
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)観光政策室長 田中 三文 氏
中部地方整備局長 梅山 一成
- テーマ：①歴史まちづくりと観光
②歴史まちづくりと防災

●主な意見

テーマ①歴史まちづくりと観光

- ・亀山市の観光振興ビジョンでは、観光を前面に出すのではなく、暮らしを軸にして町並み等を大切に守り伝承していくことが観光に繋がる「まちづくり観光」という概念を掲げている。
- ・「うだつの上がる町並み」では、単に歴史的建造物を保存・活用するだけでなく、歴史的な町並みと一体になった祭礼、伝統行事等について情報発信し、観光振興を図っている。
- ・生活スタイルの多様化により伝統行事への参加者が減ってきている。
- ・最近では、経済界でも歴史的文化的資産の磨き上げ、継承に向けた取組が行われている。
- ・町家が建ち並ぶ川原町では、伝統工芸等が息づく町並みに合わせ無電柱化や道路美装化などの修景整備を行うことで、歴史的な雰囲気向上を図っている。
- ・斎宮跡地内には、約 600 世帯 2000 人が生活しており、地域住民の生活と史跡の保存・活用との調和が課題。
- ・地域産業など何か共通テーマにより広域連携ができるとよい。
- ・美濃市は、中部圏北陸圏の真ん中に位置していることから、両圏域を行き来する観光客に滞在してもらえるよう広域連携に取り組んでいくことが課題。
- ・鶺鴒が行われている全国 12 の組織が参加する鶺鴒サミットを開催し、鶺鴒事業の現状や今後の展望について意見交換している。

テーマ②歴史まちづくりと防災

- ・高山市の伝統的建造物群保存地区では、防災計画に基づき貯水槽の整備や用水路を使った可搬ポンプなどの消火設備の配備を進めている。また、近隣住民でグループをつくり、相互に火災を監視するシステムがある。
- ・土蔵は防火帯としての機能も有するため、積極的に土蔵の修理に助成してきた。
- ・発災時には、防災無線や緊急速報メールで避難指示を発出する。さらに、高山市内のホテルと協定を結び、帰宅困難者の受入体制を整えるなど、観光都市として防災面の充実に取り組んでいる。外国人旅行者への情報提供のため、中心市街地全域で Wi-Fi が使えるよう整備したい。
- ・犬山城近くにあるグラウンドを取得し、防災公園として整備する。防災公園は、城下町地区の住民や観光客の広域避難所としての機能のほか、仮設住宅の建設スペースとしても期待している。
- ・亀山市の歴史的街区は、木造家屋密集地であり避難経路の確保が大きな課題。また、観光客の安全確保にもしっかりと備える必要がある。
- ・恵那市では、南海トラフ巨大地震の想定震度が 6 弱であり、木造家屋への影響が懸念される。
- ・高山市の伝統的な町家では、耐震性能の評価手法が確立されておらず耐震化が進まないことから、独自の耐震化マニュアルの作成に取り組んでいる。
- ・歴史的資産の災害復旧にあたっては、専門的知識・技術を有する職員や技術者の不足が心配される。歴まち認定都市間の連携により、これらを確保していくことが次の課題。
- ・観光客が帰宅困難となった場合の一時的な避難場所の確保や食糧の提供など、帰宅困難者対策が課題。

【以上】